

静岡県伊豆市

市民(いのち)を守るまちづくり

推進事業(XR防災教育)

総合政策部 企画財政課 ふるさと納税係

TEL:0558-88-8008 mail:furusato@city.izu.shizuoka.jp



伊豆市



## 避難対策の推進

### ✓ 「わたしの避難計画」作成支援事業

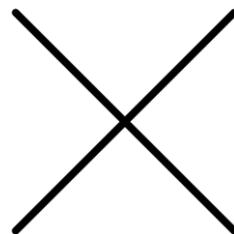
今後起こりうる大規模災害に備えて、一人ひとりが「いつ」「どこ」に避難すべきかをあらかじめ計画

### ✓ 地域の防災リーダーの育成支援

中学生を対象に、普通救命講習とジュニア防災士の資格取得を目指す実践的な防災教育を実施

ふじのくに防災士養成事業補助金

### ✓ 遺体収容所開設訓練、災害ごみ仮置場訓練



## 防災拠点の整備

### ✓ 令和7年4月 新中学校開校

停電に強く、避難生活に備えた設備を設計

### ✓ 防災機能を兼ね備えた公園の整備(令和8年春開園)

避難者用の備蓄倉庫、非常用トイレを確保

災害対策拠点となる危機管理センターを併設

### ✓ 観光客のいのちを守る津波避難複合施設

「テラッセオレンジトイ」オープン(令和6年7月)

【全国初】商業施設と津波避難タワーが一体となった施設

## 生徒の創造性と探究心を育む次世代型の学びの拠点

### ◆先端的なICT機器や可動式の家具を導入

- 柔軟で多様な学びのスタイルに対応
- **1人1台端末**で、生徒一人ひとりの興味や理解度に応じた「**個別最適な学び**」を実現。

### ◆避難所としての活用も見据えた防災機能

- アリーナ（大・小）や武道場など体育館部分にはガス式のエアコンを採用し、**停電時にも利用可能**
- **校舎に隣接する「防災機能を備えた公園」と、「危機管理センター」と一体となることで、面としての防災力を強化**
- 非常時には危機管理センターから非常用発電機による給電が可能

### ◆伊豆中学校は・・・

従来の「教室」と「廊下」、そして「特別教室」による画一的な学校構造の固定観念から脱却し、校内のあらゆる空間が子どもたちの学びの場となるよう設計されています。

**「通いたくなる学校」「通わせたい学校」「勤務したくなる学校」**を理念に、生徒・保護者・教職員一人ひとりが誇りと希望を抱き、ともに未来を切り拓く、**理想的な中学校**を目指しています。



▲面としての防災力（中学校、公園、危機管理センター）



▲避難所としての活用も見据えた設備（アリーナ大）

## 【全国初】 慶應義塾大学と教育に関する協定を締結！

### ◆ 取り組みの柱：「XR防災教育」

伊豆市が新たに立ち上げる探究型学習プログラム「伊豆タイム」では、慶應義塾大学SFC研究所 日印研究・ラボの知見を活かしながら、**中学生がXRを活用し「災害死者ゼロ」を目指した地域課題解決への新しい仕組みづくり**につなげます。

### ◇ XR防災教育の内容

- ・ VR・AR技術を使った防災シミュレーション
- ・ 地域を知り、アイデアを形にするワークショップ
- ・ **中学生による地域への防災提言**
- ・ イベント発表

### ◆ 協定に基づく今後の交流

- ・ 伊豆中学校を拠点とした**継続的な探究学習（XR防災教育）**と成果発表
- ・ **慶應義塾大学SFCへの生徒訪問・大学生との交流**
- ・ IT先進国・インドの学校との国際交流

### ◆ 未来へつなぐメッセージ

伊豆市は、慶應義塾大学と共に「**地域をフィールドにした探究と学びの場**」を創出し、**次世代を担う子どもたちの生きる力を育む**とともに、**新しい学びの形を全国へ発信**していきます。



▲協定の様子



▲VRを体験する菊地市長



▲授業の様子



大学のない地域にも学びの機会を届けたい  
×  
災害死者ゼロを目指したまちづくり

技術・知識の提供  
(事業の共創)

慶應義塾大学と協定締結  
教育×デジタル



東京と伊豆市の二拠点生活者が  
市のGIGAスクール構想を主導



熱い想いをを持った行政マンと  
企業版ふるさと納税人材派遣型職員が連携



  
教育  
×  
防災  
×  
地方創生  
の  
新しいかたち



財源の支援  
(企業版ふるさと納税)

【伊豆市出身の創業者】  
ふるさとの子どもたちのために  
役立ててほしい



静岡銀行

【企業版ふるさと納税の紹介】  
地域課題解決に向けた企業と地域との  
新たな共創をサポート

【企業版ふるさと納税人材派遣型職員】  
中小企業診断士の知識、人脈と金融機関のノウハウを活かして  
静岡銀行にマッチング業務を依頼

# 産学官金連携（チーム伊豆市）の全体像

技術・知識の提供（事業の共創）		
	慶應義塾大学SFC日印研究ラボ代表 ショウ・ラジブ氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的な日印パートナーシップの核となる人材育成に注力</li> <li>・研究テーマ（一部）は「災害リスク軽減」「気候変動適応」「テクノロジーとデータサイエンス、AI、IoT」「スタートアップエコシステム」</li> </ul>
	慶應義塾大学SFC研究員 高根佐知子氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・XRを活用した次世代型の地域連携防災教育の設計・実践・研究に取り組み、慶應義塾大学と伊豆市をつなぐパイプ役を担う</li> <li>・ICT先進国であるインドの中学校において、XRの体験学習を提供</li> </ul>
	デジタルハリウッド大学学長補佐 佐藤昌宏氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想を主導した第一人者で、東京と伊豆市（持ち家）で二拠点生活</li> <li>・毎年、ゼミ合宿を伊豆市で実施【テーマ：教育×デジタル】</li> </ul>
	伊豆市学校教育課主幹 杉山暁彦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画財政課シティーセールス担当時、人材誘致の戦略のもと佐藤氏の伊豆拠点確保を支援し、信頼関係を構築</li> <li>・異動後も協働関係を継続、先端教育に関する知見を教育政策へと発展</li> </ul>

財源の支援（企業版ふるさと納税の活用）		
	株式会社グランバー会長 大川吉美氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊豆市出身でグランバー創業者</li> <li>・令和6年にはグランバー東京ラスク（グランバーのグループ会社であり、同社も創業）を通して企業版ふるさと納税</li> <li>・伊豆市の遊休施設をラスク製造工場として稼働し、地域資源の活用や雇用の創出にも寄与</li> </ul>
	静岡銀行地方創生部、修善寺支店	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡銀行修善寺支店の支店長が企業版ふるさと納税の制度を大川会長に紹介し、寄附実現に至る</li> <li>・寄附のやり取りを超え、地域課題解決に向けた企業と地域との新たな共創をサポート</li> </ul>
	伊豆市企画財政課主任 （企業版ふるさと納税人材派遣型にて三島信用金庫より派遣） 深澤香織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政ヒアリングに参加し、市の事業と予算規模を把握</li> <li>・金融機関のノウハウを活用し、静岡銀行にマッチング業務を依頼</li> <li>・本件寄附の活用方法を杉山主幹、企業の双方に提案し調整を行う</li> <li>・企業版ふるさと納税の制度説明、資料作成、企業対応を一貫して担当</li> <li>・令和6年第44回「企業と地方公共団体とのマッチング会」に参加</li> </ul>

## 事業共創の成果

- 伊豆市の重点政策である「防災」と「教育」に大学の技術と知識を活用
- 企業からの支援により、単年度事業にとどまらず、継続的な事業が行える環境が整った
- 大学がない過疎地域においてもデジタル技術を活用することで高度な教育が可能になった
- XRを含むこの高度な連携は、地方創生を推進し、地域と世界が結びつく可能性を広げた

## 企業版ふるさと納税の成果

- 企業版ふるさと納税人材派遣型職員の活用
  - ▷ 全庁を巻き込んだ仕組みづくり
  - ▷ 地元金融機関との連携
  - ▷ 寄附件数、金額の増加  
R5:7件260万円 ⇒ R6:21件1,260万円  
\* 本人人件費除く
- 市が主導しつつ多様な主体と共同して地方創生に取り組むスキームの確立

それぞれの組織の強みやノウハウを活用し  
「チーム伊豆市」で  
「地域への愛着や誇りの醸成」と「魅力ある子育て環境を創出」



# 静岡県伊豆市へのご支援 よろしくお願いいいたします



総合政策部 企画財政課 ふるさと納税係

TEL:0558-88-8008 mail:furusato@city.izu.shizuoka.jp



伊豆市